

<株式会社エフエム東京 第 459 回放送番組審議会>

1. 開催年月日：令和元年 6 月 4 日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（4 名）

横 森 美 奈 子 委員長

内 館 牧 子 委員

ロバート キャンベル 委員 川 上 未 映 子 委員

◇欠席委員（2 名）

渡 辺 貞 夫 委員

秋 元 康 委員

◇社側出席者（10 名）

富木田 代表取締役会長

千 代 代表取締役社長

平 専務取締役

吉 田 常務取締役

西 川 常勤監査役

村 上 常務取締役営業局長

森 田 執行役員編成制作局長 兼 編成部長

兼 株式会社グランド・ロック代表取締役社長

延 江 営業局エグゼクティブ・プランナー

若 杉 編成制作局制作部長

新 野 番組プロデューサー

◇社側欠席者（0 名）

【事務担当 森田放送番組審議会事務局長】

4. 議題： 番組試聴（約 25 分）
『SUNDAY'S POST』 4 月 28 日（日） 15:00～15:50 JFN 全国 38 局ネット

＜議事内容＞

議題 1:最近の活動について

■2019年4月度 聴取率調査結果について

2019年4月度の首都圏ラジオ合同聴取率調査結果が、ビデオリサーチより発表されました。（調査対象期間：2019年4月15日～4月21日）

今回、当社コアターゲット M1F1 層（男女 20～34 歳）の全日平均において、在京トップを獲得しました。今回の特長としては 20 代男女では同率トップ、30 代男女、40 代男女では単独トップとなったほか、12-59 歳区分でもリーチ（到達率）で在京単独トップとなりました。今回は M1 層で平日 3 ワイド番組、F1 層で平日 7 ワイド番組がそれぞれ同時間帯で在京トップを獲得し、4 月改編で投入した新ワイド番組「ONE MORNING」は M1F1、20 代男性において単独トップ、「ホメラニアン」は 20 代女性、30 代男性において在京単独トップを獲得するなど、改編の効果が表れ始めました。一方、今回は在京局全体において、M1F1 層、M2F2 層とも全局個人聴取率が下降傾向にありました。その中で、当社は善戦した形ではありましたが、同時にラジオメディア全体の接触拡大への課題を再認識させられる結果ともなりました。また、週末においては、土曜朝の新番組「Ready Saturday Go」が F1 層を中心に好調なスタートを見せたものの、日曜は特に朝、夜帯のスコアが低迷するなど、かねてからの課題も残しております。引き続き、課題点の克服に加え、ラジオリスナー以外にも惹きつける話題性の発信を目指し、生活者のメディア接触環境、ライフスタイルにフィットした編成、番組づくりを心がけてまいります。

■『SCHOOL OF LOCK!』第 56 回ギャラクシー賞ラジオ部門 選奨受賞

第 56 回ギャラクシー賞 贈賞式が 5 月 31 日（金）に都内で開催され、TOKYO FM 制作『SCHOOL OF LOCK!』（2019 年 1 月 28 日 22:00～23:55 放送）がラジオ部門において選奨を受賞いたしました。今回選奨を受賞した 1 月 28 日の『SCHOOL OF LOCK!』は、「1 月 15 日に、東京都町田市の都立高校で起こった生活指導担当教諭による男子生徒への体罰が、別の生徒によりスマートフォンで撮影され、その後動画は twitter で拡散された」という問題を扱った回です。『SCHOOL OF LOCK!』リスナー（生徒）に当該高校の在籍生がいることが番組掲示板で確認され、番組テーマとして「いま、生徒が学校の先生について考えていること、生徒が見た学校の先生が置かれている現状」を扱いました。番組冒頭で体罰のニュースに触れた上で、名物教師や恩師なども含めた「学校の先生」について様々なことを呼び込み、「自身は先生を尊敬しているが、その先生は生徒から軽視され、授業にならないほど学級崩壊寸前でやるせなさを感じている」というリスナー（生徒）と電話を繋ぎました。番組掲示板には実

際に現場で働く教師からの反響も寄せられ、「私も、自分の担当クラスが学級崩壊をし経験があり、その際、生徒からのささやかな信頼に救われたという体験があります。もし先生を少しでも尊敬しているなら声をかけてあげてほしい」というメッセージを紹介。番組の締めとして、先生も生徒も一人の人間であり、「1対1」の関係で向き合おう、という言葉リスナー（生徒）に呼びかけました。

なお、今年度の応募作品は 79 本が出品されました。

■2019年5月31日（金）特別番組『人生に、文学を。』公開収録実施。

TOKYO FM では、5月31日（金）午後6時より、特別番組『人生に、文学を。』の公開収録を実施しました。『人生に、文学を。』は、TOKYO FM が、芥川賞や直木賞などを主宰する公益財団法人 日本文学振興会と共に贈る”聴いて親しむ日本文学“のシリーズで、日本文学研究者のロバート キャンベル氏が毎回小説家をゲストに迎えて対談形式でお届けする特別番組です。第7回目となる今回は、番組初となる公開収録形式で実施しました。ゲストは、第138回芥川賞受賞作『乳と卵』の作者・川上未映子氏。収録では、川上未映子氏の最新作で、文芸誌「文学界」の3・4月号に掲載され話題となり、7月11日に発売される、長編小説「夏物語」について、ロバートキャンベル氏が質問する形式で、制作の裏側を紐解きました。また、後半では、川上未映子氏による「夏物語」の朗読も実施。収録の最後には、参加したリスナーからの質問に答えるなど、小説や創作にまつわる話、文学から考える新時代、ジェンダー問題や社会へのまなざしを語り合う収録となりました。

今回の収録の様子は6月23日（日）19:00～放送いたします。



▲ロバート キャンベル氏と川上未映子氏



▲川上未映子氏による「夏物語」朗読

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側意見)

○聴取率について、挽回をしたとのことで安心したが、毎回結果でアップダウンがあるようだ。どのように推移をしているのか示してもらえるとわかりやすい。ラジオメディア全体の接触拡大への課題、若者のラジオ離れという説明があったが、ボリュームとしてはどう推移しているのか。

■ラジオ聴取は全局的には下がっている。M1・F1 が指針とされるが、調査をするたび、下がっているのが現状。全局での M1・F1 の数字が、2.5、2.4、2.3 と階段のように徐々に下がってきて、今回は 2.0 と過去最低を記録した。全体のパイが少なかった中で、TOKYO FM が数字を維持したので相対的に首位となった。TOKYO FM だけではなく、ラジオ業界全体として、盛り上げていかないといけないという課題を持っている。

○ギャラクシー賞で選奨を受賞した『SCHOOL OF LOCK!』のやり取りを大変興味深く拝見した。テーマもタイムリーで、かなりシリアスなもの。募集して番組上でのやり取りだけでなく、掲示板への生徒たちからの書き込みをきちんとキャッチアップしている印象がある。この掲示板では、番組で取り上げるから書いてという呼びかけがあるから生徒が集まってくるのか、それとも掲示板が（生徒たちが書き込むために）随時動いているから自然に集まってきているのか。

■随時掲示板は動いて（開かれて）いる。学校が休みとなる週末以外は（開かれて）稼働しているので、基本的には生徒がいつでも自由に書き込めるようになっている。朝から夜までスタッフが交代制で掲示板を（問題が起きないように）監視している。

○例えばシリアスな問題で、掲示板で揉め事やトラブルが起きたことはあるのか。

■今までほとんどない。今回のテーマは、たまたまリスナー（生徒）に当該高校の生徒がいて、そのことを書き込んだことから始まった。

○テーマとして募集したという訳ではないのか。

■いつでも自由に書き込めるので、日々様々な書き込みがあり、自由闊達にやりとりが行われている。その中で今回の発端となった書き込みをスタッフが確

認した。

○すごくうまく機能している。当事者の生の声が聴ける。そしてそれをちゃんと拾って、コミュニケーションが生まれている。拾われた人はすごく嬉しいと思うし、10代の大きな体験になると思う。

○掲示板を拝見すると、掲載するものしないものがあるようだ。スタッフがキュレーションしているということか。

■ひとつひとつスタッフが確認している。あまりに深刻で掲載できないものもある。掲載できなかったものもきちんと保存して、スタッフが連絡をとったり、番組として電話を繋いだりすることがある。今回は学校の先生からの書き込みやメールが多く来て、先生たちの葛藤や悩みを感じた。

○どちらが悪いのか一概に決めず、聞き手に考えさせるよう構成したのが素晴らしいと思う。

○ギャラクシー賞の選奨とはどんなものか。

■2018年度の上期・下期のノミネート作品が79本あり、そこから8本が選出され、グランプリ・準グランプリが選ばれる。今回、グランプリ・準グランプリは逃したが、8本に選出されていたので選奨となった。

議題 2 : 番組試聴

【番組名】 『SUNDAY'S POST』

【放送日時】 2019年4月28日（日） 15:00～15:50 JFN全国38局ネット

【番組概要】

本日ご試聴いただくのは、4月からスタートした、毎週日曜 15時から放送中の、“日曜にだけオープンする耳で聞く郵便局” 『SUNDAY'S POST』です。

番組には様々な思いが詰まった手紙が毎週届きます。メインパーソナリティーをつとめるのは、放送作家、脚本家の小山薫堂氏、そしてこの4月からフリーアナウンサーとして活動している元テレビ朝日アナウンサーの宇賀なつみ氏。番組に届く“思いの詰まった手紙”を通じ、じっくりお話をうかがっていきます。まだ知られていない人、土地、モノ…、日本各地にあるたくさんの物語を紹介しています。

今回ご視聴いただく4月28日（日）の放送回では、オープニングで、郵便局の集配業務をされている方からの手紙を紹介。封筒を開ける音や紙の音もお届けしながら、小山薫堂氏が手紙を読み上げ、手紙の良さ、あたたかさが伝わる時間となりました。続いて、見城徹氏（幻冬舎代表取締役社長で編集者）をお迎えしてのトークでは、「作家の方を口説き落とす時はいつも手紙を書く」というエピソードを中心にお話を伺いました。尾崎豊氏、五木寛之氏それぞれに書いた手紙のエピソードは、当時の情景と見城氏が手紙に込めた熱がしっかり伝わる聞き応えのあるトークとなりました。番組後半、手紙にまつわる新しいムーブメントを構想するコーナーポスト会議では、住職、井上城治氏が主催されている、亡くなった人へも手紙を書こうという活動「手紙寺」のお話を伺いました。「遅れて届く手紙」というアイデアも生まれ、まだまだ知られていない手紙の魅力、新たな可能性をリスナーにも届けた放送回となります。



▲小山薫堂氏と宇賀なつみ氏 初回放送にて

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側意見)

○私も手書き派。スマートフォンも持っているが、連絡は手紙のほうが多いので、大変興味深く聞いた。デパートの手紙用品売り場でもかわいらしい便せんがたくさん陳列してあり、若い女性が多く購入している。今、改めて手紙の良さが見直されているのかと思う。陸前高田に漂流ポストというものがある、それは、震災で亡くなった人たちに当てる手紙のためのポスト。大変交通の便が悪いところにあるが、そこに手紙を入れるとホッとするのだそう。個人的な話になるが、昔勤務していた企業の同僚が、赴任した中東の国で事故死をしてしまった。享年 25、6 歳だったと思う。会社で社葬をおこなった後で、亡くなったその同僚から、「元気にやっているよ」という手紙が届いた。ぐっとくるものがあった。メールのように瞬時に届くものではない手紙ならではの衝撃だった。未だに忘れられない。手紙とはそういうもの。

○番組の音使いもとても良かった。聞きやすさの理由はパーソナリティの 2 人の落ち着いたトーンだろう。気になったのは早い段階で見城徹さんをゲストに招いてしまったので、かなり後々のハードルを上げてしまったのではないかということ。今後もゲストは続くのか？

■ゲストは招いていくが、それだけではない。また、ゲストのバリエーションも著名人だけではなく、先日は、離島へ船で郵便を配達する方に取材をした。

○そういう現場の人に話を聞くのはおもしろい。

○手紙のことを悪く言う人は日本ではあまりいないと思う。6 年前に東野圭吾氏の「手紙」という作品が映画化されヒットした。デジタル社会の中で、リアルの手紙が改めて注目されている。企画として素晴らしいと思う。小山薫堂さんと宇賀なつみさんも安定感があった。ただ、パーソナリティが 2 人いて、男女だと、どうしても女性がアシスタントになってしまう。女性は自信の意見を言わず、視聴者の代弁となるよう相槌を打つ。この番組もその枠を出ていなかった。宇賀なつみさんが自分で思ったことを自分の言葉で言ってほしい。それだけのパワーがある人だと思うので、時々逆転させてほしい。

○番組内で冒頭に集配業者からの手紙を扱っていたが、日本郵便がスポンサーなのが分かっているので、出来過ぎた感じがあるというか、宣伝めいて聞こえてしまった。

○波の音を流すときに、「波の音を録ってきたので、ではお聞きください」とパーソナリティーが振ったのが、とても稚拙な作りに感じられてもったいなかった。

○これまでもたくさん、企業のスポンサーの番組を聞かせていただいたが、この番組はとても自然で、うまくスポンサーと番組が合っているイメージだった。また、掛け合いの中での「はー」「へー」という感嘆や相槌がとても自然で、これは本心から出たもので、パーソナリティーの 2 人の息も合っているのかと思う。見城さんの話を本当に楽しんで聞いていたのかと思う。これはリスナーにとっても良い共感。

○ゲストの見城さんも、昔ながらのやり方が通用しないというのが突き付けられたり、いろいろスキャンダルがあるが、本当に面白い方。人の魅力を改めて感じた番組だった。

○とても聞きごたえがあった。配達員が出てきたり、大物ゲストが出てきたり、住職が出てきたり、いろいろなことを盛り込んでいるのに、それぞれなるほど感を感じられた。見城さんのお話は、かなり熱量を感じられた。若いリスナーが聞いてこれをどう感じるのか、昔ながらのやり方をどう思うのかは気になった。番組の感想を募集しているのか。

■感想という形式では募集していない。リスナーの伝えたいことが手紙で届くような形。

○女性アナウンサーが添え物のようになってしまうのがもったいない。もう少しキャラクターがあってもいいのではないか。「へー」「ほー」は確かに本音なのだと思うが、少し回数が多くて気になってしまった。

○今後はどんな塩梅になっていくのか。手紙だからいろんな切り口がある。

○できるのかは分からないけれど番組のブランディング的に、この番組だけの郵便番号を作ったらどうか。

■検討したい。

<第 459 回放送番組審議会議事録>

6.議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送:番組「Ready Saturday Go」

6月29日(土) 7:00~7:20 放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp/>